

---

# 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業について

---

医療法人笹本会 おおぐにいきいきプラザ 横内理乃

---

## 1. 法人の紹介

---

当法人の所在する山梨県甲府市は、山梨県の県庁所在地であり、人口:約 19 万人(195,658)、65 歳以上人口:約 5 万人(48,649)、65 歳以上の高齢化率 25.3%です。

当法人は、「地域医療者としての誇りをもって地域の皆様が安心して医療が受けられるように努める。介護従事者としての心を持って、高齢者の皆様が住み慣れた環境の中で、安心して暮らせるよう努める。」を経営理念として、「地域とともに」を合言葉に、生活圏域の中で、医療サービスと、通って、泊って、住めるという介護サービスを一体的、総合的に提供できる拠点づくりを目指してきました。

現在、整形外科を母体として、居宅介護支援事業所、訪問介護、訪問看護、通所介護、通所リハビリ、訪問リハビリ、グループホーム、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の事業を展開しています。

---

## 2. モデル事業から

---

昨年の 9 月～11 月の 3 ヶ月間 24 時間定期巡回サービスのモデル事業を受託して実施しました。

### 1) 地域の特徴と対象者

昨年のモデル事業では、甲府市の南部地域(訪問介護事業所を中心に 4.5 km × 6.0 km)7 地区の利用者 20 名を対象としました。

### 2) 移動時間と移動パターン

利用者宅までの平均移動時間は、約 9.3 分で、最も遠い利用者まで約 20 分、最も近い利用者まで約 5 分でした。移動パターンとして1回のルートで 18～22 件を訪問していました。

### 3) 職員配置

#### (1) オペレーター

看護師が対応(4人):親携帯電話を所持し、他業務にも従事しながら連絡対応をしました。利用者宅には見守り携帯と希望者のみ見守りカメラを設置し、24時間の双方向通信を確保しました。

#### (2) 介護職員

モデル事業対応として、専従職員を3人配置し、他は兼務として対応しました。

20人の利用者に対し、職員の実人数 27.7 人、常勤換算 4.8 人でした。

### 4) 訪問看護との連携

モデル事業開始以前から訪問看護を利用していた 9 名に対して、モデル事業の定期訪問に組み込み対応しました。看護は、同一法人内の訪問看護事業所と連携しました。

## 5) 随時対応

随時の連絡は、本人・家族からの問い合わせ等の確認事項が多かった。また、3 か月間で緊急対応の必要性があったのは、定期訪問時に意識状態が悪く倒れていた独居の男性と転倒骨折した独居の女性の 2 件であった。

## 6) モデル事業効果と課題

\* 全体的には、24 時間安心して住み慣れた自宅で生活できる完全・安心の支援ができたと考えます。

### (1) 効果

利用者の中には、3 か月間の中で身体機能の向上や精神的に意欲の向上が見られるなどの効果がみられた。

82 歳の男性は妻と 2 人暮らしで、高齢の妻は廃用傾向となった夫の介護に限界を感じ、施設の利用を希望していました。モデル事業で定期巡回をすることで、1 日 6 回の定期訪問によりトイレ誘導により毎回歩行を行ない、足ふみ運動などを行なうことで ADL が向上するとともに、ヘルパーの訪問により家庭に会話も増え、意欲的にとり組むようになりました。モデル事業 3 ヶ月の間に介護保険の認定の更新があり介護 3 から介護 2 に改善もみられました。

独居高齢者では、定期巡回を実施していたために急変時や転倒、骨折時の早期対応ができた。

88 歳の独居女性の夕方の訪問時に、ベッドサイドで転倒しているのを発見し、訪問看護と連携して受診につなげました。右上肢の骨折があり、本来ならば、独居生活は困難な状況となりましたが、24 時間を通しての定期巡回を計画し、自宅での生活を可能としました。

認知症高齢者への支援の効果も感じる事ができた。

91 歳日中独居の認知症の女性は、毎日 1 人で買物に外出していました。家族は外出して帰れなくなることを心配していましたが、定期巡回による安否確認ができるようになりました。また、訪問者が来ることを理解できるようになり、外出時に置き手紙を残すようになったことは認知機能の改善と思われました。

80 代の認知症夫婦世帯の定期巡回により、内服薬の声かけと確認により確実に内服ができるようになりました。また、前述した高齢者同様、外出が多かったため安否確認ができました。

モデル事業においては、利用者本人のみならず、家族の介護負担の軽減を図ることもできた。

老老介護のケースでは、施設の利用を考えていたが、排泄介助の身体的負担の軽減や訪問者が定期的を訪れる事での精神的な安心感が得られ、在宅介護を継続することができました。

子が介護者である場合、別居であることが多く、同居であっても仕事があるため日中独居となることへの心配があったが、定期巡回訪問と見守り携帯により、安心感を与えることができた。

### (2) 課題

#### サービス提供時間への配慮事項

・訪問回数が、多いことを煩わしいと思っている利用者もいる。これらの利用者は、訪問介護で 1 時間あるいは、1 時間 30 分のサービスを提供されてきたことでの頻回の訪問に違和感があったようであるが、時間内で出来る支援内容であっても利用者に「あわただしい」と感じさせていたことは、概ね 20 分で支援することの難しさを感じる。

- ・利用者の状況による支援時間の長短や、交通事情による移動時間の長短により訪問時間がずれ込むことは、長時間訪問に比べて起こりやすい現象である。予定訪問時間の遅れに関する対策が必要となる。
- ・食事時間帯のサービス利用希望が重なるため、時間の調整や職員の確保が困難であることも課題である。

#### 効率的な移動時間と事業範囲

- ・移動時間は、20分未満のサービス提供及び記録時間を考えると5～10分が限度と考える(場合によっては渋滞時間も考慮しなければならない)。
- ・都市部では利用者確保が容易だとは思いますが、農村部でのサービス提供は成り立つのか疑問である。

#### 職員配置上の問題点

- ・介護職員、看護職員を問わず訪問系に従事する希望者は大変少ないのが現状であり、加えて夜間帯に従事する職員確保はさらに難しい。
- ・入院等による利用者数の増減があった場合、それに伴っての職員数の増減は、職員確保を考えると簡単には出来ない。特に、夜間(深夜)帯の職員体制の維持には、制度実施の中で採算面への配慮がないとサービス提供に影響が生じる。
- ・夜間巡回訪問時の介護職員(特に女性一人の場合)の安全対策が必要となる。  
深夜帯の定期巡回訪問について今回は、防犯ベル付の見守り携帯を携帯して訪問したが、十分な安全確保とは言い切れない。職員の安全確保について検討していく必要がある。

### (3) 職員への効果と課題

- \* 職員間の協力・連携意識が高まった。
- \* 利用者の生活全般が把握しやすく、適切なアセスメント、プランの作成・実施ができる。
- \* 職員間の連携強化、支援内容の互いのチェックにより、質の向上につながる。
- \* 短時間のサービス提供では、職員の意識によっては自立支援ができなくなる危険性はある。概ね20分で満足できる心身のケアを行うためには、質の高い職員でなければ対応できない。

---

## 3. 10月スタートした定期巡回・随時対応型訪問介護看護

---

### 1) 地域の特徴と対象者

甲府市の南部地域でモデル事業の時の7地区に農村部の2地区が加わった9地区が対象となっています(包括支援センターは3か所)。現在、利用者8名を対象に実施しています。

### 2) 移動時間と移動パターン

現在の対象者は、農村部の地区の人はいないため、移動時間はモデル事業の時とほぼ同じ状況です。移動パターンとして1回のルートで14～18件を訪問しています。

[平成24年12月の状況]

- ・訪問回数:全903回(介護のみ887回)、1日一人当たり3～6回(平均4.0回)、  
訪問時間:一人1回あたり22.7分

### 3)職員配置

#### (1)オペレーター

看護師が対応(3人):モデル事業時と同じ対応をしています。

#### (2)介護職員

常勤職員3名とパート職員1名で対応しています。現在、1日2.5人です(約30件/日)

### 4)訪問看護との連携

法人の訪問看護ステーションと一体型で事業を展開しています。訪問看護利用者は現在、5名(10月から現在までに、医療保険での訪問看護利用者2名が定期巡回を利用したことがあり、一体型の訪問看護ステーション以外の訪問看護事業所との連携もありました。)

### 5)事例

#### (1)末期の見取り

75歳男性、癌の末期で同居の姉(81歳)の介護を受けながら生活していたが姉の介護負担感が強くなり、別居して通いで介護を受けることとなり、定期巡回が開始となった。カンファレンス当日の夕方から2~3時間ごとの定期巡回を行ない早朝の訪問時に最期の看取りを行なうことができました。1人暮らしになっても、孤独死になることなく、見守りができたことはご本人の安心感にもつながったのではないかと思います。

#### (2)虐待の疑いのあるケース

91歳男性。孫と2人暮らしで介護保険のサービスは特に利用していなかった。介護負担感から孫による虐待の疑いがあり、地域ケア会議後サービス開始となった。定期巡回により孫の負担感も軽減し、虐待のような状況はみられていない。また、サービスが導入されたことで県外の家族の関わりも出てきた。